

東京都世田谷区在住夫妻の生活時間—1995年調査

第2報 サービス残業を含めた労働時間と休日・休暇の実態

○水野谷武志* 斎藤悦子** 伊藤セツ** (*法政大、**昭和女大)

目的：国際的に依然として長い日本の労働時間は、「過労死」を引き起こし、また賃金の支払われない「サービス残業」を背景としている。この長い日本の労働時間を短縮するためには、労働時間の実態はもちろんのこと、長時間労働が生活時間に与える影響 特に生活時間に示される性別役割分担 を明らかにすることが必要である。そこで本報では常勤夫妻のサービス残業を含めた労働時間の実態を表した上で、それがどのように夫妻の生活時間に影響しているかを分析する。また、労働時間と並んで労働者の労働条件を表す重要な指標である年次有給休暇等の休日・休暇の実態も明らかにする。

方法：調査方法、調査対象の特徴は、第1報に同じ。生活時間調査に付帯して質問した労働時間及び休日・休暇について夫妻別、企業形態別に比較分析した。

結果：①常勤夫妻の総労働時間（所定内労働時間、支払い残業時間、サービス残業時間）は、私企業の夫が週合計で55時間を越えてもっとも長く、そのうちの1割をもサービス残業時間が占めており、またサービス残業時間の妻の方がかなり短い。②夫の総労働時間の長さごとに3つグループに分けた夫妻の生活時間を見ると、私企業の夫妻で性別役割分担が強く、公的組織の方が夫妻間の生活時間バランスがとれていた。③年次有給休暇の取得日数にはジェンダー差がみられ、特に私企業の妻の日数が夫よりも多い。